

常任委員会の審査報告

平成十九年度二本松市一般会計 歳入歳出決算の認定について

総務常任委員会

問 十九年度決算の実質収支額、約六億四千三百万円の赤字の主な要因は何か。

答 歳入においては、地方交付税が予算対比で約二億八千三百万円の増となったこと。歳出においては行財政改革を含めた各種事業の精査を行った結果である。

問 税務嘱託員の実績額はいくらか。

答 訪問した延べ件数が、四千六百六十八件、徴収額で市税、国民健康保険税あわせて

平成二十年度二本松市一般会計補正予算等について

建設水道常任委員会

問 二本松駅前周辺整備事業の遅延工事の補助金等返還について、財源内訳で地方債四百八十万円が入っているのは、どういうことか。

答 財源内訳の変更であり、対象路線の振り替えにより、一般財源から合併特例債事業に該当させることができたため、変更したものである。

二千四百十万八千円である。**問** 財政調整基金の財政運営資金としての繰替運用に対する利率の根拠は何か。また、具体的にとどのような運用を行っているのか。

答 繰替運用の利率については、普通預金の相場を参考に設定したものである。また、資金計画に基づき、短期の大口定期預金により運用した。

問 「名目津の湯」の運営計画はどのようなものになっているのか。

答 指定管理者制度を導入し、管理運営を行うが、年間約七千人の利用客とした場合、市からの管理委託料は概算で、年間約三百万円と見込んでいる。

問 二本松市水道事業会計決算の認定について、営業収益を見ると、補正予算で二千三百七十七万九千円減額しているが、実際は前年度対比で八千六百九十五万六千四百二十六円も増収している。その関連はどうか。

答 給水収益は水道料金を当初13%値上げで見えたものを、11%で議決となったので減額している。11%値上げによって収益は上がっているが、水量の増加によって上がっている分も含んでいる。

堆肥サポートセンターの建設について

市民産業常任委員会

問 平成十九年度二本松市国民健康保険特別会計歳入歳出決算において、国保税の滞納額と今後の収納率向上のための対策は。

答 滞納額は、繰越分の四億二千三百九十七万七千円と減年度分一億五千二百二十八万七千円の合計で五億七千六百九十九万四千円あり、滞納者は千七百七十二人となっている。収納率向上の対策としては、財産調査を行い、差し押さえの処分を行っている。また、他には、訪問徴収、特別徴収月間の取り組み、休日

の納税相談、口座振替推進などの取り組みを行っている。**問** 堆肥サポートセンターの建設について、どこの堆肥センターでも運営、維持管理に苦慮しているようである。市として、センターへの支援は考えているのか。

答 今回建設を予定している堆肥サポートセンターは、酪農家がそれぞれ持っている堆肥舎で足りない部分を補うものであり、そのために建設費と運営におけるランニングコストを低く抑えることができる。

市とみちのく安達農業協同組合との協定により、市が建設を行い、運営はみちのく安達農業協同組合に責任をもってやっていただくということであり、現段階においては、市の支援は考えていない。

平成十九年度二本松市一般会計歳入歳出決算の認定等について

文教福祉常任委員会

問 高齢者にやさしい住まいづくり助成事業について、実施件数は。

答 五十六件の実績であった。

問 結婚推進員設置事業について、成婚の実績は。

答 それぞれ活動いただいている中でありますが、成婚までは至っていない。

問 安達太良小学校にある天体観測施設を利用しての天体観測学習事業で夜間の利用学校数は。

答 天体観測学習事業が、日中の授業に組み込んで実施しているもので、残念ながら子ども達を学校から家に帰して、その後また集めて授業を

実施するということはなかなか現実的には難しい。**問** 地域自立生活支援事業の配食サービスの利用件数の伸びは。

答 件数に目立った伸びはないが、高齢者の一人暮らしや、高齢者のみの世帯では、是非このような制度がなくしては困るとの声も、数多く寄せられている。

問 認知症高齢者見守り事業の内容は。

答 平成十九年度は、安達地域において、認知症サポーターの養成講座と認知症家族談話会を合計六回開催した。

問 保育料設定の根本的な見直しはできないか。

答 合併協定の内容、現在の各地域での保育料の状況、私立幼稚園の保育料の状況、更には市の財政状況や負担のあり方等、総合的に検討した。